

浜松市版「人生会議手帳」について

浜松市では、人生の最終段階における医療・ケアに関する話し合いを進めるための「人生会議手帳」を作成しました。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることが、できなくなるといわれています。

自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で元気なうちから前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。このことを「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」、愛称を「人生会議」といいます。



「人生会議手帳」では、自らが大切にしていることを振り返り、人生の最終段階で希望する医療やケアについて考え、大切な人と話し合うきっかけとなるように、自分の思いや希望を書き込むページや、なぜ考えることが必要なのかなどの情報を掲載しています。

記入にあたって（人生会議手帳のP.2 もご覧ください）

- 気持ちが落ち着いている時に書くことをお勧めします。
- 最初から順に書かなくてもかまいません。書けるところから書いてみましょう。
- 書いたものは、大切な人（家族や友人など）に見せ、一緒に考えてみてください。そのうえで変わった点は書き直しましょう。
- P13は自由記載のページです。手帳の内容以外で大切な人に伝えたいことや、相談した主治医や担当ケアマネ等の名前を書くなどご活用ください。

このような取組は、それぞれが主体的に考えたいと思った時に進めていきます。「今はまだ知りたくない、考えたくない」という方へ強制するものではありません。また、実際に終末期になった際には改めて医療者から説明を受け、話し合いをしていきます。

「わたし」らしく生きるために、あなたのご家族や親しい人といっしょに考えてみませんか。